

令和6年(2024年)9月30日



## 後期バルク乳検査がはじまります



10月から後期バルク乳検査が始まります。乳房炎原因菌、牛ウイルス性下痢(BVD)ウイルス等の検査を実施します。採材日程については個別にお知らせしますので、ご協力をお願いします。バルク乳から黄色ブドウ球菌、低温細菌等が検出され、個体乳検査を希望される場合は当所までご連絡ください。

## 秋の飼養管理について

夏の暑熱ストレスによる免疫力低下、ビタミン・ミネラル欠乏に、昼夜の気温差などのストレスが加わるため、秋は病気になる牛が増えてしまいます。

気温が下がる



食欲が回復



濃厚飼料を増給



酸の生成量が吸収量を上回る(第1胃)



ルーメンアシドーシス

濃厚飼料の給与量を増やす場合は、粗飼料を増やして第1胃の発酵速度を緩やかにした上で、少しずつ増飼してください。生菌剤、吸着剤なども第1胃機能の改善に有効です。また、暑熱ストレスによって消耗しているビタミンやミネラル、強肝剤の補給も効果があると言われています。

## ランピースキン病について

ランピースキン病は、2019年以降アジアで発生が拡大し、2023年、2024年には韓国でも発生が確認されています。日本での発生はありませんが、侵入リスクは高まっています。

症状は、皮膚の結節や水腫、発熱、泌乳量の低下などで、不顕性のもので重篤なものまでさまざまです。主に蚊・サシバエ・マダニが媒介して感染します。毎日の健康観察による早期発見・早期通報が重要です。また、媒介する害虫の駆除が侵入防止対策として挙げられます。



結節(全身性)



皮膚病変

(出典:農林水産省)